

紀念誌發刊の辭

會社新築紀念として投票を募集したる建築業者十傑

賞撰者紀念誌を今回發刊するに方り聊か其概要を縷陳せ

んとす其趣旨たるや昨年十月我京都日出新聞は現今の京

都市上京區柳馬場二條南入ル等持寺町に位置を卜し新築

移轉を爲したるに就ては是が新築紀念として建築業者及

建築材料供給者の十傑投票を廣く募集したるに大に社會

の同情を得非常の好評を博すると同時に適任者十傑を得

たり其投票の結果最高二十萬票以上最下と雖も四萬票を

下らざるの高點を以て其撰に舉り名譽なる月桂冠を得ら

明治
42 9 20
丙午

れたる十氏は何れも我京都に於ける建築請負業者若くは建築材料供給者中の一頭地を抜くの錚々たる人々なりしは蓋し偶然ならざるべし。本社は當撰者諸氏の肖像並に成功談等の履歴を社會に發表すると共に盛大なる當撰祝賀會を開催し且つ紀念品たる金銀盃を贈呈して之に敬意を表彰したり然るに市内及各府縣斯業者は續々此美學を勸迎し將來に於ける斯業獎勵發展上好機關なれば一の十傑當撰者紀念誌を發刊し本社日出新聞の新築紀念とし永く保存して後進者の參考に資せん事を其希望切なるを以て茲に此の紀念誌數千部を發刊するに至りたる所以なり。今や我邦は世界列強の班に加はり國運の進歩益々發展の

域に達し之れに伴ふ結果我邦に於ける西洋建築物は漸次増加すると同時に建築業者及建築材料供給者の如きも又時勢の變遷と共に往昔と異り新進の方針を以て事業の刷新と發展を企圖し一は以て我邦獨特固有の建築法を維持し一は以て歐洲各國の建築術の研究に力め和洋兩建築事業は將來我斯業家を以て掌握し内外相通じて遺憾なくらしめん事を期せざるべからず然るに如何せん建築材料中未だ已む事を得ずして之を外國に供給を仰がざるべからざるもの又少しとせず併し之等は斯業界に於ては業に已に内地品を以て外國より供給に代ふべき材料品質の研究を試みつゝあるもの多くして現に舶來品と遜色なき物品

を發見せるもの又少なからずと聞けり寔に喜ぶべき現象
なりとす然れども當撰者諸氏は勿論斯業者等宜しく現時
の狀態に安んぜず奮勵一番層一層の研鑽を重ね益々我邦
に於ける建築業界の今後に於ける一大發展を圖られん事
を希望して止まざるなり聊か燕言を陳し本社新築と十傑
當撰者の紀念誌發刊の辭と爲す

明治四十二年八月

編 者 識



京都市建築業界選定者
鈴木憲吉君之肖像

を發見せるもの又少なからずと聞けり寔に喜ぶべき現象
なりとす然れども當撰者諸氏は勿論斯業者等宜しく現時
の狀態に安んぜず奮勵一番層一層の研鑽を重ね益々我邦
に於ける建築業界の今後に於ける一大發展を圖られん事
を希望して止まざるなり聊か燕言を陳し本社新築と十傑
當撰者の紀念誌發刊の辭と爲す

明治四十二年八月

編者識



京都市日出新聞建築十傑當撰者
鈴木鹿彌惣吉之肖像

鈴鹿彌惣吉君之履歴

鈴鹿彌惣吉君は滋賀縣滋賀郡仰木村故北川小太郎氏の四男文久二年正月二日を以て生る。同家は世々宮殿堂宇専門の建築家にして嘗て日光山御用達たり君幼より斯道の研究に怠らず性剛直にして温厚且つ先見の明を有し頗る忍耐力に富む常に時勢の變遷に伴ひ進歩的態度に出るとをその特色とせん明治十三年君十九歳にして始めて京都に出て大谷派本願寺繪圖所に入り勤務の傍ら製圖を學ぶ後故竹内彌助氏に就て研鑽に勉め大に得る處あり明治十八年十月鈴鹿家に入り其嗣子と成り土木建築請負事業を開始し明治二十年始めて京都市第一絹糸紡績株式會社煉化造工場及木造附屬家建築工事を請負ひ天晴れの成功を示し賞與金壹千圓を受く同二十三年東京森村組京都出張所洋館及日本木造附屬家建築を請負ひ同様賞與金五百圓を受けたり明治二十六年三月米國シカゴ博覽會開催に際し建造

物視察研究の爲め渡航し洋館建築術に付研鑽するところあり明治三十八年日露戦役の際建築視察として清韓地方へ漫遊を試み亦得る處少からず明治二十九年拾萬圓の資金を投じ伏見街道に製瓦株式會社を起し三十一年紀伊郡深草村に於て田中謙青山和藏氏等と共に合資組織を以て煉瓦の製造に従事し共に重役となる猶進んで建築事業の發展を計らん爲め自ら發起して建築材料供給者の共同組なるものを組織せしめ今日に到るまで持續經營し斯界に裨益するも多大なり明治四十一年五月鈴木保太郎鈴木喜三郎兩氏と匿名組合を組織し二條驛前に地を卜し三鈴商會と名け秋田木材株式會社の特約店を開始し専ら秋田特産の製材を販賣し目下熾に營業擴張を計りつゝあり其他君が斯界に於て幾多の建築請負を爲すに當り日本銀行三井銀行及鐘淵紡績會社の工事を除くの外は未嘗て専門技師の力を藉らず一々自己の考案指呼に出で悉く之が成功したるものは實に枚擧するに遑あらず當地に於ける建築界の霸王を以て目さるゝも決して

て偶然にあらず君資性義俠に富み一朝事に當れば萬難を排して之を遂行せんとを努む彼の絹糸紡績會社工事の際にも殆ど一命を賭して其衝に當り又大谷派本願寺が大宮御所の御殿を拜領してより書院に改築せんとするや三十日間にして能く成功すべしとの注文なりしより何れも此請負に躊躇せしかば君自ら進んで此難注文に當り人夫八百名を使役し美事三十日間之を成功せしめたる上同本山財團整理金の内へ貳千參百圓を寄附したるはよく人の知るところなり君又常に部下を獎勵慰撫し其堵に安ぜしむ殊に受負工事の如きに在つては假令半途にして物價騰貴は勿論其他如何なる障害難事に遭遇するも更に之を辭せず堅く當初の契約を重んじ極力之を勉め毫も自己の損害を顧みず能く其功を奏するを以て快とせらるゝが如きは實に他の及ぶ能はざる處蓋し賞讃の外なし又その家庭願る圓滿にしてよく父母に仕ふ一昨年兩親の爲めに金婚式の大典を擧げ之れを無上の榮とせらるゝ今回我社移轉紀念の爲め建築業十傑投票を募集の結

果最高點に當撰月桂冠を得られたるは誠に遇然にあらざるなり



京都日田出間維新上深高選首
伊藤兵衛之君之像



京都市出陣新開建築業十傑當選者
伊藤久兵衛君之肖像

果敢高踏に當撰月社電を習ふれたる誠は過然にあらざるなり

伊藤久兵衛君之履歴

君は建築受負を業とし京都市下京區高辻通室町西入繁昌町に住す君が生國は廣島縣豊田郡大乘村にして君が祖先は大職冠鎌足公の系にして中興高崎神社の祠官となり其連綿と二十八代目唐崎監物信位氏の六男彌兵衛氏は國家を維持するは豊饒に在りとし自から進んで農に入り撫本家を起し其四代目喜助氏の三男君は幼名を才藏と名け嘉永五年四月二日を以て生る幼にして經濟思想に富み漸次都會に出て實業家たらんと志し十二歳にして備後尾の道なる藥種商藥家へ商業見習として茲に仕ふる事二ヶ年なりき遇々同家に新築の事起るや君は朝夕工事の一部に與りて其巧拙を知り始めて茲に將來建築事業有望なるを看破し改良の必要急なるを感じ大に建築事業に熱中するに至れり十四歳にして單身當地に來り當時建築業として有名なる先代伊藤久右衛門氏に仕へ能く斯業の研究を爲し練習

の積むに従ひ特に製圖の術に達す長ずるに及び久右衛門氏を助けて斯業の發展を計りたるより先代も大に君の他に勝る處を見抜き之れが養子たらん事を懇望せり茲に於て君は先代の意思を諒し同家に入り明治九年伊藤家を相續し名を久兵衛と改む現時斯界の偉人として名を博すると同時に益々繁盛を來すに至る而して君が宗家たる唐崎家は今に高崎神社の祠官にして三十四代能登守信隆即ち唐崎速男氏にして又君が實家たる鹽本家は現時六代目にして鹽本喜太治氏相續し君と共に彌が上に榮へくして目出度繁榮を來せり又君は資性温厚篤實にして且つ義侠に富む故に世上に信用厚く殊に大家の建築を受負ひたることを枚擧するに遑まあらざるも悉く一の欠点なく成功し金銀盃并に賞金に感謝状を受けたる事之亦多かりき就中明治三十五年東京白木屋呉服店が和洋折衷の一大新築工事を起すや君之を受負數多の部下を自から指揮督勵し凡ての設計は別に専門技師を要せず獨特の妙技をあらはし契約期限内に美事なる大成功を示し金

品及感謝狀の贈與を受け東京の斯業界をして殆んど一驚せしめたりき君又之に伴ふて公德を重んじ常に得意先の爲めに誠意原料の如きも可及的冗費を節し建築上良材を得ることを努め他に率先して自から製材工場を設置し之が製材機械を据付け使用する等凡て進歩主義の態度を取り幸福と良材とを利益は得意に分ちて毫も自己の利得と爲さず其結果一層大に好成績を占むるより更に製材分工場を市内千本通りに設け製材機械を据付け之れが業務の擴張を謀ると同時に尙ほ進んで第三工場設置の計畫を立て着々準備怠らざれば遠からず之亦事業開始する事とせり蓋し君は斯る大成功者なるにも拘はらず故郷を愛する熱情深く今を距る四年前即ち明治三十九年に莫大なる私費を投じ生國なる高崎村の村道を一手に修繕し一橋二ヶ所を新架し且つ田畑數反を村内に寄附し毎年其收得利金を以て永世氏神祭禮の費用に充當して村費の減少を圖りたる爲め村民は擧つて大に君の徳望を追慕し居るに至る尙ほ此外に君は宗教をも信仰し實家

菩提寺なる宿坊禪宗藥師寺の堂宇破損をも修繕し佛具一式を寄付したる
上毎年數多の金圓を同寺に寄付し養父母及實父母の立派なる石碑を古郷
を始め京都に建設し其孝養は生前仕ふる所に異るなし家庭は頗る圓滿に
して一時養父母以下三夫婦揃ひ居たる時の如きも毫も風波の起りたる事
なく亦部下を愛すること慈母の子に於ける如く能く撫育し爲めに事業上
に於て一の故障なく魚の水中に游泳するが如く車の両輪に於ける如くに
して歩一歩と進み今日の繁盛を見るに至るは豈偶然ならずと云ふべし



京都日田行成堂主人
山本虎助之肖像

菩提寺なる高田禪宗禪師寺の堂宇破損をも修繕し佛具一式を寄附したる
 上毎年敬多の金剛を同寺に寄付し義父母及實父母の立派なる石碑を古郷
 を始り京都に建設し其孝養は生前仕ふる所に異ならず家庭は頗る和睦に
 して一時益父母以下三人夫婦揃ひ居たる時の如きも毫も風波の起つた事
 なく亦部下を愛するとも慈母の子に於ける如く能く撫育し爲めに事業上
 一放つたの故障なく魚の水中に游泳するが如く車の両輪に於ける如くは
 して歩一歩と進み今日の繁盛を見らば至らば豈偶然ならずと云ふべし



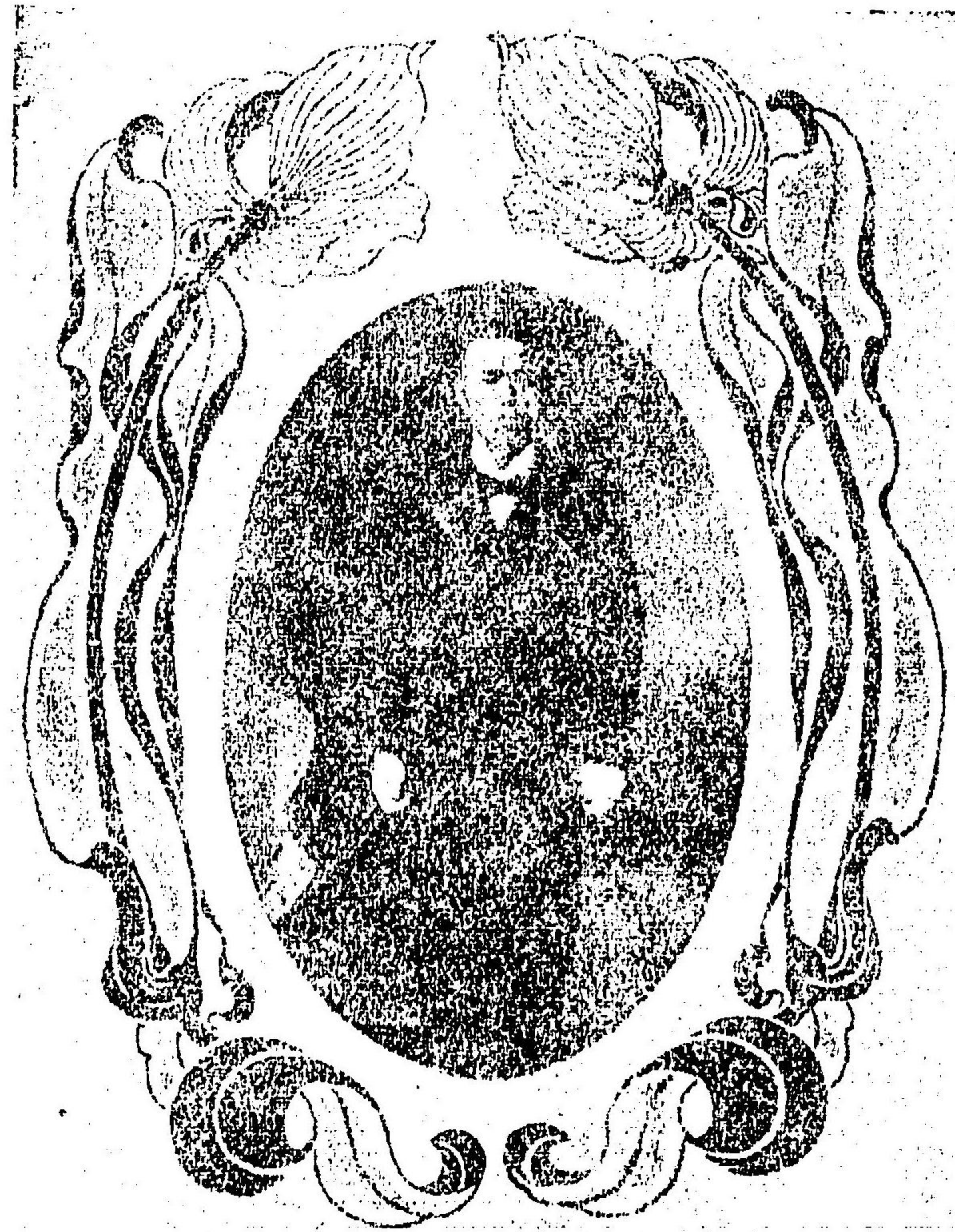
京都市日出新開建築業十傑當選者
 山本虎之助之肖像

山本虎之助君之履歴

君は本市下京區間之町通魚棚上ゝ塗師屋町百五番地に住し建築請負を業とす元治元年十一月但馬國養父郡八鹿村の内九鹿村字馬瀬に生ゝ家號を大家と稱し逆上りて其祖先を尋ぬゝに初代藤原朝臣道光より元和時代山本甚吾に至る三十世約八百年間其詳細を瞭かにせずと雖も降りて四十二世に至る約四百有餘年間歴然として古記録相傳はり山緒深き家柄なり即ち四十二世山本喜三治は君が先代亡父にして農を業とし君は其第二子なり幼にして父母を失ひ故ありて長兄山本佐太郎氏は分家せしを以て同村親族なる山本四郎右衛門氏西田伊孝氏の補助を仰ぎ同酒造家水垣加藤治氏の後見を頼み十七歳にして家を繼ぎ同村建築家碓井喜代三郎氏に就きて建築工事の實修すると約五年明治十七年志を立て單身京都に來り河原町四條下ゝ建築家井上市太郎氏の職を助け偶々新京極蛸薬師なる寄席改

築中誤て洋燈頭上に墜落し大傷を受け九死に一生を得たり是より人稱して焼虎と異名し漸く斯業界に名を知らるゝに至れり以來益々斯業の研鑽に力め明治二十九年下京區上の口通新寺町西入若宮町に於て建築請負業を開始し爾來京都府廳を始め京都市役所、鐵道廳、第四師團經理部、文部省、京都帝國大學、其他諸官衙又諸會社の用命を受け今日に至る十餘年間施工せし工事は枚舉に遑あらず其著名なるものを掲ぐれば明治三十七年日露戰役起るや軍事輸送の必要上より鐵道作業局の指名を以て舞鶴線福知山停車場其他各驛新設工事を速成請負の嚴命の下に五百餘名の職工を督勵し極めて短時日の間に遺憾なく成工し又同戰役中陸軍被服廠大阪支廠縫靴工場新設速成し更に四十年に至り第十六師團歸還に際し天下茶屋元豫備病院を同兵營に模様替及新設工事を三十日間を以て速成するを嚴命せらるゝや日夜各職工千餘名を使役し僅か二十日間を以て無事落成を告げ同業者をして驚歎せしめたり當時君は連夜安眠せざりしと又以て君が如

何に斯業に熱心なるかを知らるゝに足るべし本社新築工事又君の請負にて遅滞なく成功するに至れり君又世運の進歩に伴ひ建築上煉瓦の需用多きを顧慮し資金貳萬圓を投じ大阪府東成郡鯉江村に煉瓦工場を起し目下盛に製造し居れり君資性溫柔剛直物に當つて動せず殊に家庭は圓滿にして毫も虚飾を爲さず斯業界の一人物たるを失はず



京郡日其開維業士傑當選者
淺由富之助君之肖像



者選當傑十業築建聞新出日都京
像肖之君助之富山淺

淺山富之助君之履歷

君は現時京都府葛野郡朱雀野村字壬生に材木商を營む生國は京都府丹波國北桑田郡山國村字井戸の舊家初田利兵衛の分家材木商初田市太郎の三男なり慶應元年十二月に生る君幼より父に従ひ學業の傍ら斯業を勵み十九歳にして同郡黒田村舊家大東彌三郎の養子となる養父彌三郎は明治七年に至り府下葛野郡朱雀野村字壬生なる西高瀬川岸に支店を設置し茲に材木商を營み丹波産の材木を廣く京都に販賣しありき當時丹波産の材木を京都に運搬するに西高瀬川の舟便を借るより詮方なきを以て更に大堰川より筏のまゝ流下運搬せん事を思ひ立ち有志家と共に再三時の府知事に出願を爲し尙ほ明治十七年京都府會に向つて躍起運動を試み遂に筏船の便を許す事を可決せしめ十年の宿望を達せり此一事は土地の繁盛に資すると少からず現に千本通は三條より四條迄は殆ど材木商を以て充たし

むるに到れり君も之を補佐して力ありき明治二十三年養父没するや君は父の業を繼續し居を前記の處に定め故ありて淺山家を繼ぐに至る爾來斯業の擴張を謀り各方面の建築業者に材木の供給を爲し京都大佛鐘樓堂建設に就ては總て木材は君一手に引受け成功せしめ電氣事業の發達に伴ひ電柱材の需用多きを鑑み傍ら電柱材の供給を受負斯界に大活動を爲せり又京都電燈株式會社の如きは創業以來幾千萬の電柱及諸木材の供給を爲せり三十一年一月葛野郡材木商組合設置され君その組合長となる爾來滿期改選毎に再選せられ現に組合長たり三十四年居村より郡會議員に舉げられ滿期再選され同時に又村會議員に舉げらる三十六年六月朱雀野村外四ヶ村隔離病舎組合會議員に當選し同年九月大内村外四ヶ村高等小學校組合會議員に當選し三十七年朱雀野尋常小學校學務委員に舉げられ三十八年六月下京稅務署郡部所得稅調查委員に舉げられ明治四十年九月葛野郡より府會議員に當選し四十一年十月葛野郡教育部會副會長に舉げらる

欠

MISSING



者選當傑十業築建開新出日都京
像肖之君衛兵吉上三

三上吉兵衛君之履歷

君は下京區猪熊通三條南入る處に住し建築受負を業とす先代吉兵衛氏の五男にして明治八年二月を以て生る家系頗る舊家にして今を距る五代前滋賀縣滋賀郡仰木村より京都に來り代々仰木屋吉兵衛の稱號を以て建築業に従事し建築家中の錚々たる者あり君が父吉兵衛氏は維新後即ち明治五年頃より町家の店舗建築は勿論諸官衙社寺學校等の建築受負を開始し爾來斯業の發展に務めたり君十三歳より三十歳までは父に従ひ建築業を實習し其間又十六歳の時より有名なる建築家佐々木岩次郎氏に就て製圖幾何等を研究し大に得る處あり數年前先代吉兵衛氏歿し其業を繼ぎ家業益々繁昌し以て今日の盛況を見るに至りしも君尙ほ之に安んぜず益々斯業の發展に務めつゝあり而して君が先代吉兵衛氏を補けて建築受負を爲し成功を告げたるもの實に多數にして金品等の賞與及び謝狀を受けたる

事枚舉に違まあらざるも其内顯著なる分のみを舉ぐれば宮内省御用としては大和樞原神宮本殿拜殿祝祠舎等の建築を始めとし二條離宮本丸即ち桂宮御殿移轉改築、泉山東北御陵拜所幄舎神饌奏樂舎手水舎御鳥居門等の建築其他伊勢大廟の祭主館、内宮御神樂殿、大麻授與殿唐門寺町廣小路なる梨木神社本殿其他一式滋賀縣金堂村大城神社本殿、同阪本西教寺御影殿、大和生駒の法隆寺大講堂、金堂、五重の塔等の大修繕工事又官公署にては京都療病院、御苑内博覽會、市會議事堂、大和高田の葉烟草專賣所、京都蠶業講習所、商業學校第三高等學校、帝國大學諸教室、講義室、會社にあつては七條米穀取引所を始め、天津麻布株式會社、兵庫精米會社、京都織物會社、七條内外倉庫會社等の受負をなし何れも皆成功したり其他各商店別莊等を建築せり君の祖先は又天明年間にて於て京都全市殆んど全焼せる大火に罹り一時資産を失ひたるも間もなく回復して次第に家道繁盛し當代に在つては多くの別家を有し家庭には尙ほ老母あり一男一女を有し頗る圓滿君又頗る義俠に

富み如何なる事情の爲めに損害するも契約を履行し職工を愛撫し社會の信用を得斯界に重んぜらる



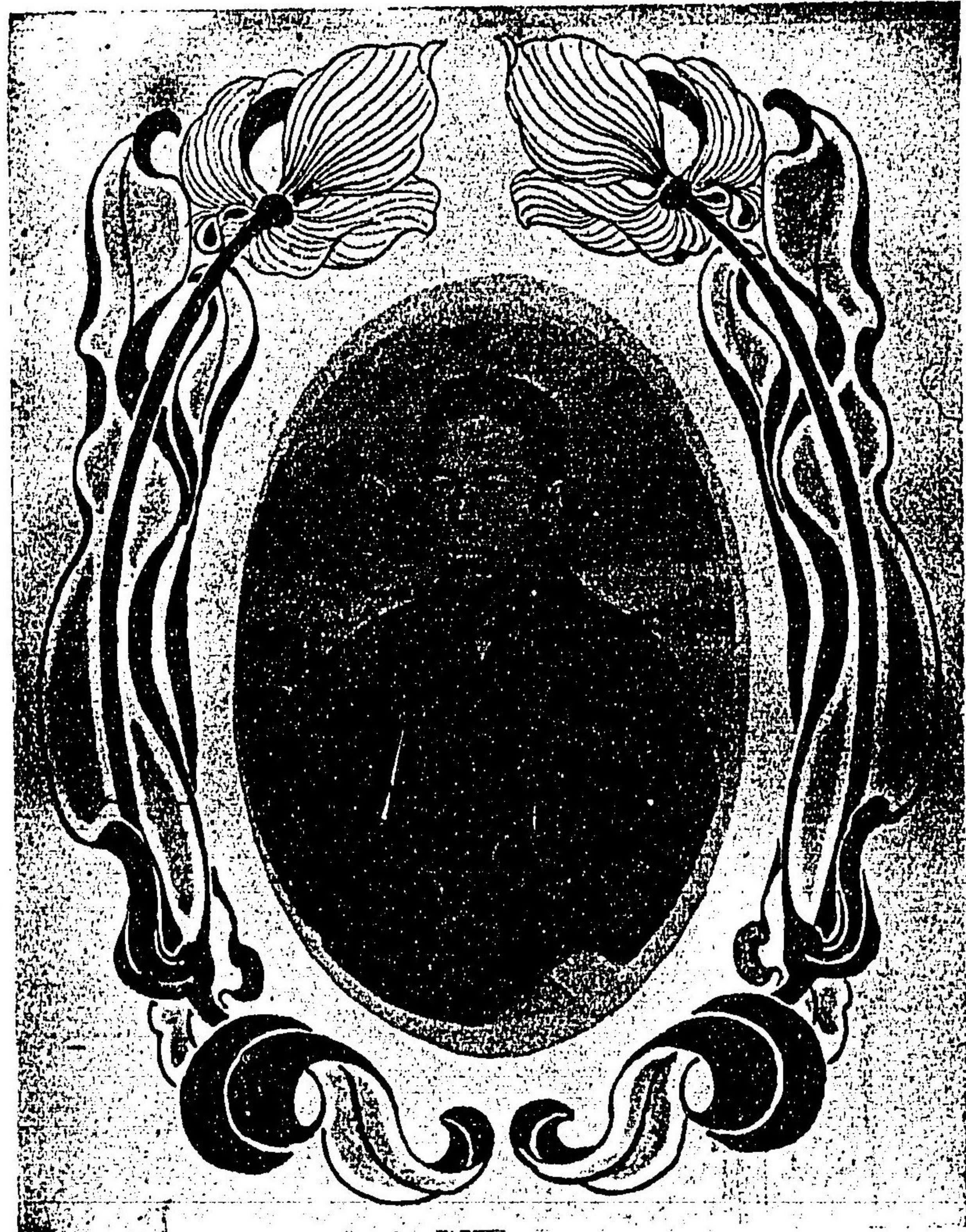
者選當傑十業築建聞新出日都京
像肖之君郎太庄口田

田口庄太郎君之履歴

君は下京區本町三丁目に住し建築受負を業とす明治五年七月京都に生れ六歳の時田口家の養子と成る祖父庄七は文久二年十月皇居御造營の際大佛組々頭として御用命を受け功あり特に裏千家流茶席建築の妙技に達し自宅にも茶席を設置し茶道及香花等の風流をも併せて好めり君は十九歳にして嚴父庄太郎を失ひ夫れが爲祖先の妙儀を失せん事を憂ひ専心研磨其奥儀を極め尙ほ之と同時に専ら日本式固有の建築物奥儀を究め常に貴顯紳士の別荘或は茶席の建築受負に従事するに至れり先に大阪某豪商の希望に依り京都式建築受負を爲し又舞子濱に某貴顯の別荘を建築し何れも見事に竣成を爲し其他當市各商店又は地方に於て茶席等の建築せしめたるもの枚擧に遑あらず又君は京都建築業者より組合商議員に推選せらるゝや種々の陋習を破り幾多の情實を去り専ら建築業者の改良發達に努

めつゝあり君の最も得意とする處は純日本式の洒落輕易にして妙味を失はざる建築に在りて斯業者の仲間にては常に其一風變りしを以て各方面に重用せられつゝあり隨て一時的建築物の受負は之を排し永久的工事を
行ふを目的とするを以て利害の點に於て亦往々他の同業者の爲め不利益なる事もあれど唯最後の勝利を得るを目的とする次第なれば之れが爲めに反て得る處多大なりし要するに君は京都式固有の建築物の蘊奥を益々研究し茶席等に對しては君の特色として他の企て及ばざる處にして尙且時世の進歩に従ひ歐米式建造物に付ては君は日夜深く傾心する處あり屢々濱神間へ出張其最新建造物に就ては十分研究調査せられつゝあり現に
十一年には三條柳馬場本田洋服店の和洋折衷の建築工事を受負完成せり此工事の如きは君が研究の資料の爲多大の損失を惜しまざりし事は如何に深き熱心と趣味をもたれたるかを見よ其外和洋折衷に就ては最も其長所は寫眞寫影場にして君が多年苦心せる効あり今日迄數十の寫眞場を

完成し多く京都に其比を見ざる處たり現に最新式獨特の妙ある故大谷伯爵家の寫影場新設に際し何等關係なきにも不拘特に申込まれ其依頼に應じ完成せられたり熱誠之が研究は益々歩を進めて斯業の發展を期しつゝあり

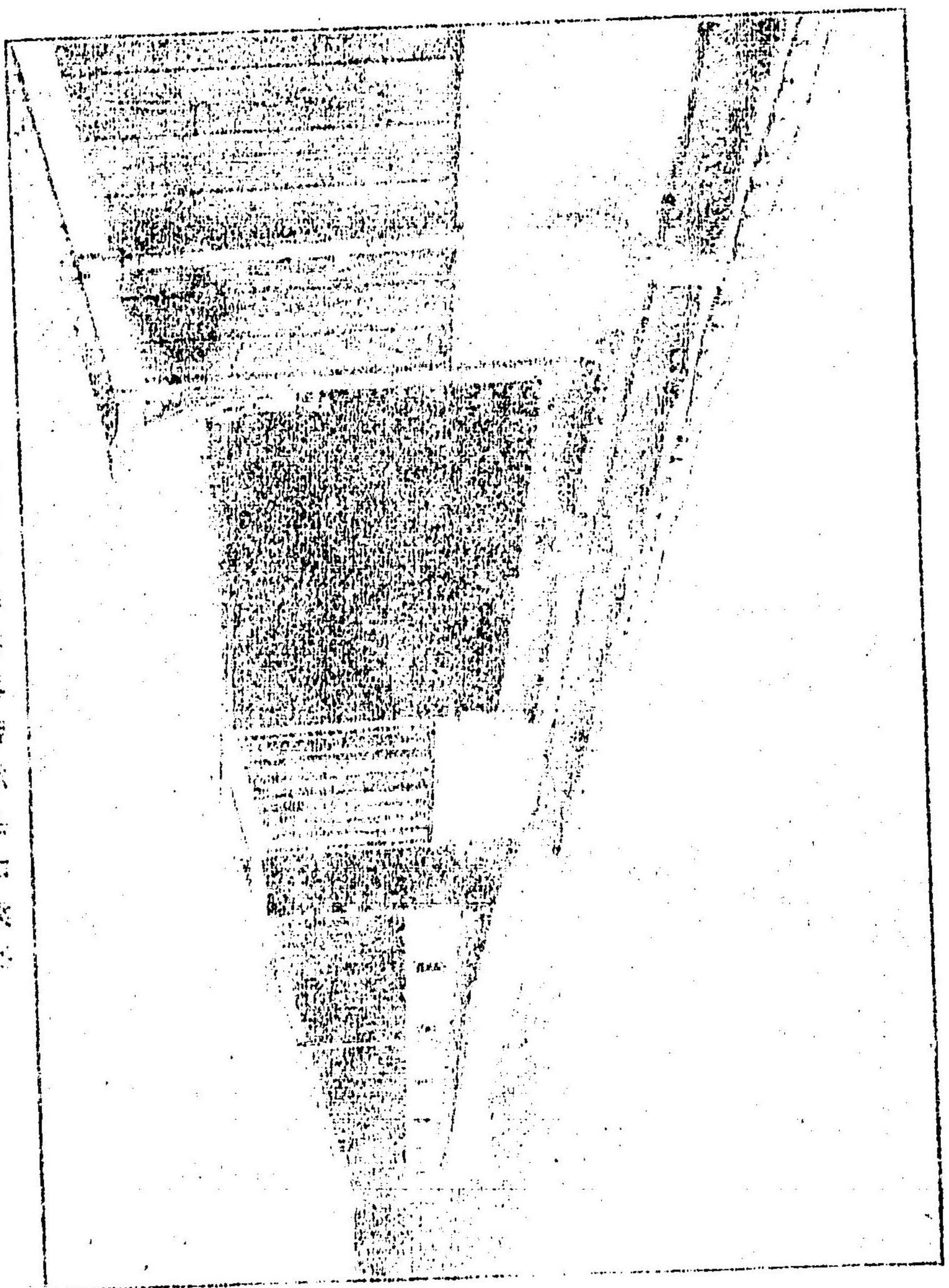


京都市出雲守新築十傑當選者
小野寺末太郎之肖像

小野寺末太郎君之履歴

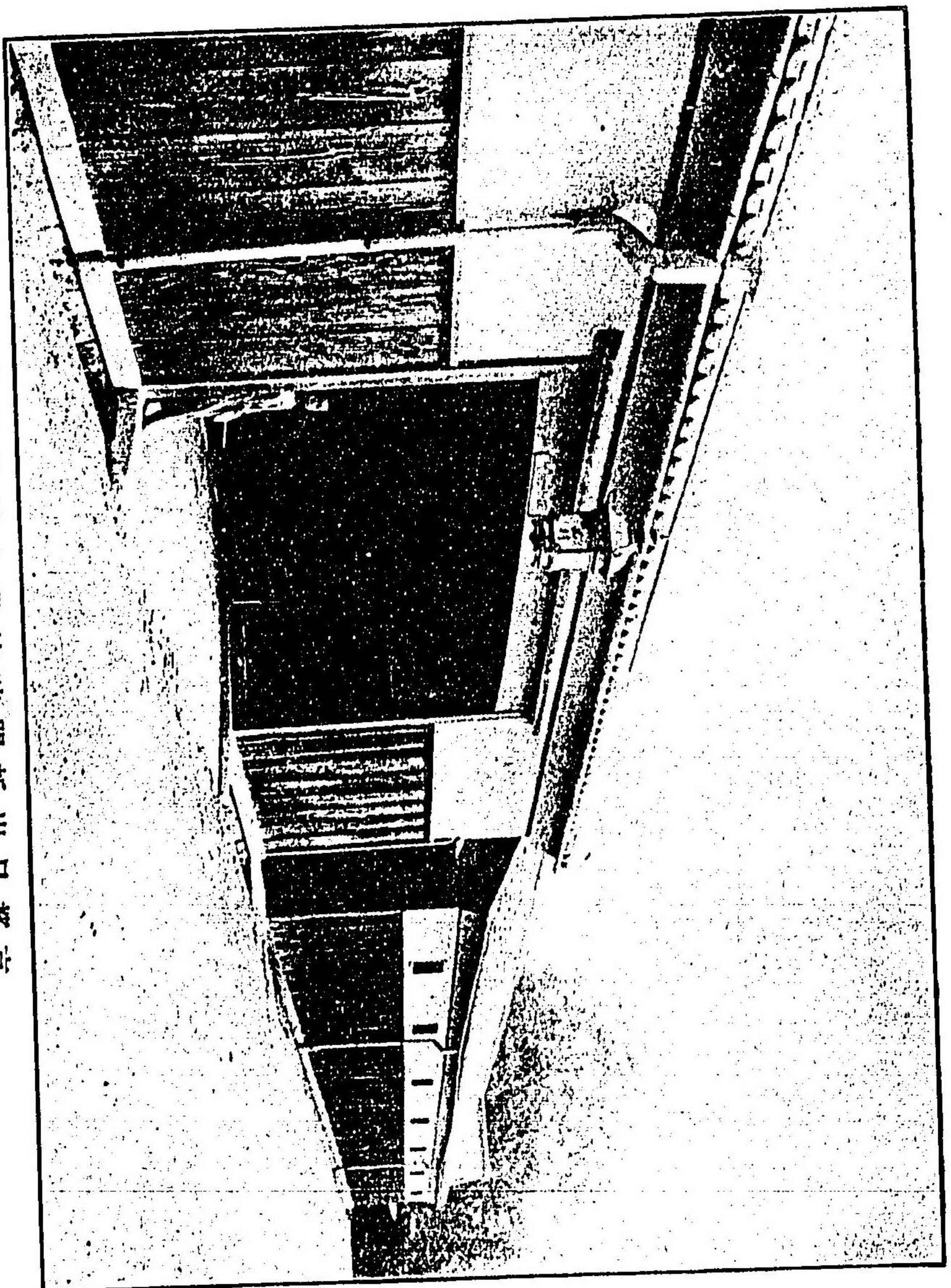
君は上京區間之町通二條下る處に住し建築受負を業とすその祖先は元録の昔播州赤穂の城主淺野家の藩士小野寺重内秀和と呼ぶ秀和同藩士大高源吾忠雄の舍弟を世子として幸右衛門秀富と稱す君は實にその末裔なり七歳にして父に死別かれ母の手に育てらる同業者俣野吉左衛門氏に就き業を習ふ修業後貧苦の中より母に孝養を盡し斯業に勉勵研鑽の結果漸やく建築受負業者として世に立つに至れり明治三十六年二月東京火災保険株式會社京都支店を四條に新築するに當り其棟梁となりて工事に従ひ一の瑕なく同年十月落成を告げ荒井支店長より其功勞を賞せられたり其他明治火災保險會社を始め諸方の愛顧を受け大小の建築業に成功せしと擧げて數ふべからず明治二十七年京都市財産保護の名譽職にして中立賣警察署部内消防手小頭を拜命す其後三十三年二月上京區大宮寺の内劇場

出火に際し熱心消防に盡力したる廉を以て時の中井知事より賞状を賜り
又三十九年四月圓山公園也阿彌ホテル出火の際職務を全ふせし廉により
大森知事より賞状を受け現に尙ほ其職を努む君言動靜肅忍耐力に富む宛
として古武士の風貌ありと謂つべし



著 遺 實 長 十 兼 榮 造 岡 新 山 日 新 京
宅 邸 之 霜 門 衛 右 彦 村 西

出火に際し熱心消防に盡力したる廉を以て時の中井知事より賞状を賜り
又三十九年四月間由公園也阿彌ヲラル出火の際職務を全ふせし廉により
大森知事より賞状を受け現に尙ほ其職を努む君言動靜肅忍耐力に富む宛
として古武士の風貌ありと謂つべし



者選當傑十業築建開新出日都京
宅邸之君門衛右彦村西

西村彦右衛門君之履歷

君文久三年十一月を以て當地大佛西門通大和大路東元瓦町に生る世々瓦製造を業とし其名三都に喧傳せらる君が祖先は遠く平安遷都の際奈良より隨從し來りたるが禁裏御所御造營に付て京都粟田の土質検査をなし好粘土を得茲に窰を築きて瓦の製造に努めたり其後慶長年間大佛殿建立に際して現在の居住地大佛に移轉し御所の御用達を命ぜられ瓦御杵と稱し世々西村越前大様と稱したり維新聖駕東行後に於ても尙京都御用出入方とし以つて今日に及べり君が嚴父彦右衛門氏は明治十六年隱居し君代つて家督相續を爲し爾來父の業を繼ぎ熱心斯業を研究し同年支店を東京京橋區南橫町に設置し業務の擴張を謀れり君明治十二年以來父の業を補佐し東京赤阪御所客殿の御屋根瓦の御用命を受け續いて十五年より十九年に至る間皇居御造營に際し御屋根廻り瓦一式の御用命を勤む此間瀝土の

瓦製造に腐心研鑽したるが當時資金缺乏負債山を爲し將に破産に類したるも君忍耐以て研究の功を奏し十九年に至り漉土瓦の改良漸やく成り初めて素志を達するに至れり、二十二年札幌及箱根の兩離宮に於ける耐凍瓦の必要起り苦心の結果遂に之が製造法を發明するを得たり、君が十二年より四十年末に至る瓦の製造額累計は實に二百二十萬圓の巨額に達し殊に三十九、四十の兩年の如きは一ヶ年十六萬圓以上の産額に達したり、君が製造の瓦は皇居を始め奉り赤坂青山兩御所以下各宮御殿各華族其他數百の富豪家の邸宅に使用せられ猶將來其需要益々盛大ならんとするの傾向あり之れ即ち君が製造上改良苦心したるの結果なりとす、又先々代より家業の傍に茶道に熱心し裏千家流を學び號を宗通と名け嚴父彦右衛門氏宗元と號し各宮家及大名方或は富豪家に出入し殊に高貴方の愛顧を受く、君亦茶道を嗜み加之も本業に熱中する傍ら公共事業に盡力し其の家庭は圓滿にして八十二の嚴父七十餘の慈母に對して孝養怠らず性質溫柔事に臨ん

て毫も動かさず尙且剛直義侠に富む蓋し之れ君の特色なるべし

但し西村君の肖像を掲載する筈なるも同君の希望により邸宅を茲に掲ぐる事とせり



者選當傑十業築建開新出日都京
像肖之君郎次淺野眞

眞野淺治郎君之履歷

君は京都市上京區堺町通二條下る處に住し世々左官を業とす先代實父太助氏は姉小路通藪屋町に住す君は慶應三年二月を以て茲に生る十九歳より父に従ひ本業に従事し大に研鑽を重ね尙ほ進んで歐風の建築術に就て學ぶ所少からず明治二十七年父の業を繼續し現住所に營業所を移し大に業務の擴張を謀る明治三十八年中清國天津に渡り人夫數十名を督勵して日本租界壽街へ出張所を設け續て北京奉天營口山海關各地に於ける各商店及別莊洋館工事に従事成功を告げたる工事は枚擧するに遑あらず其重なる工事は東寺の伽藍堂其他私立東山病院新築永觀堂南禪寺全部の修繕柳池小學校護王神社彌榮小學校京都紡績會社豐國神社阿彌陀ヶ峯京都盲啞院京都織物會社北野俱樂部京都電話局第一絹糸紡績會社増築梅屋小學校京都御所大修繕工事龍池小學校の改築日本銀行出張所京都府廳内三八

俱樂部、日本製布會社、三井銀行支店、京都陶磁器試驗場、太秦廣隆寺大修繕、森村組、京都出張所、赤十字社、京都支部、二條離宮大修繕工事、鐘淵紡績會社、京都府立病院講堂、京都府立圖書館、清國天津日本租界武齋洋行、小栗洋行の新築工事等なり。君性頗溫柔剛直にして、家庭圓滿而も義侠に富み且つ部下を慰撫する事兄弟も皆ならざりし。又君が成功の事業に對し、賞與金銀盃及謝狀を受けし事枚擧に遑まあらざりし。斯界に於ける一人物と云ふべし。

初田岩次郎君之履歷

君は下京區正面通高麗川西岸に住し家職を販賣と稱し京都に於ける石炭并にセメントの販賣業の元祖たり。其の祖は其營業は却々手廣く各地に支店を設け遠くは韓國京城及清國を以て支店又は代理店を置き業務の擴張を謀れり。君安政三年の生れにして、幼少より五代前迄は近江國犬上郡彦根に住し世々農を業とし。なるに當時の百土帝室に出で商業に従事せんとの決意をなし即ち耳塚通七條下へ邸は大塚と稱し土と石炭とを販賣せる人ありしが其株を買受け同商業を營み家職を土管と名付けたり。其後家業漸次隆盛に赴き皇居御造營其他の御用を命ぜられたるが當代岩次郎君先代を助け大に斯業の發展を謀り、現住所の地を下し家屋を新築して君が十七歳の時明治五年迄と共に轉仕せり。其後建築業は追々進歩し其材料に舶來品セメントを使用するに至り、茲に於て斷然業を改め明治七年神戸の商館八番と

俱樂部日本製布會社三井銀行支店京都陶磁器試驗場太秦廣隆寺大修繕森
村組京都出張所赤十字社京都支部二條離宮大修繕工事鐘淵紡績會社京都
府立病院講堂京都府立圖書館清國天津日本租界武齋洋行小栗洋行の新築
工事等なり君性頗溫柔剛直にして家庭圓滿而も義侠に富み且つ部下を慰
撫する事兄弟も尊ならざりし又君が成功の事業に對し賞與金銀盃及謝狀
を受けし事故擧げ難しあるを以て斯界に於ける一人物と云ふべし

初田岩次郎君之履歷

君は下京區正面通高瀬川西岸に住し家號を灰岩と稱し京都に於ける石灰
并にセメント販賣業の元祖たり左れば其營業は却々手廣く各地に支店を
設け遠くは韓國京城及清國等に支店又は代理店を置き業務の擴張を謀れ
り君安政三年の生れにして當主より五代前迄は近江國犬上郡彦根に住し
世々農を業としたるが當時の戸主帝都に出て商業に従事せんとの決意を
なし即ち耳塚通七條下る處に大源と稱し土と石灰とを販賣せる人ありし
が其株を買受け同商業を營み家號を土岩と名付けたり其後家業漸次隆盛
に赴き皇居御造營其他の御用を命ぜられたるが當代岩次郎君先代を助け
大に斯業の發展を謀り現住所の地を下し家屋を新築して君が十七歳の時
明治五年父と共に轉住せり其後建築業は追々進歩し其材料に舶來品セメ
ントを使用するに至る茲に於て斷然業を改め明治七年神戸の商館八番と

特約しセメント販賣(石灰は従前通を開始し家號を灰岩と改む爾來洋館の建築漸やく増加すると共にセメントは日本建築の土工用にも使用せらるゝに至り其需用は益々増加したるを以て明治十五年初めて大阪に大阪セメント株式會社組織せられて之が製造を爲す事となりたり君は機逸すべからずとし同會社と特約を結び京都一手販賣を爲し鱗印セメントの販賣を一層擴張し殊に石灰は産地たる土佐豊後伊豫等の製造家と是亦特約したるが君が商品の確實なるより各建築家は何れも之を使用せざる者なく同時に信用は益々高く遂に今日の隆盛を見るに至れり加之も社會は益々贅澤に傾むき人造石を使用する者亦多きを加へ來りたれば君は數年前より石灰セメントの外に附帶事業として人造石の發明を爲さんと更に工場を下高瀬に設置し數十名の職工と技師を聘用して之れが研究に力めたる結果漸く完全なる製品を得て専ら之が製造販賣に着手し以て今日の成功をなせり君性溫柔にして而かも剛直の氣風あり家庭は二男二女あり何れ

も君の業を補佐し頗る圓滿なりと

但同君は寫眞送附無之遺憾なから寫眞版挿入を省けり

附

錄

營業案内

商號表竹
堂號永昌堂

山田竹三郎君

君は京都下京區御幸町通三條下ゝ處に現住し表具

を業とす堂號を永昌

堂商號を表竹と名付

け盛大に業務の發展

と斯業界の改善に熱

中せらる君が祖先は

今を距る百有餘年前

初代山田竹三郎氏は

上京區押小路通柳馬

場東入處に於て前記の堂號商號を以て表具を業と

し京都に在つては表具師中の舊家として稱賛さる

るも當代の君は二代目山田竹三郎氏の長男にして



文久元年十二月二十七日に生れ幼名を芳太郎と名
く君四歳の時鐵砲焼と稱する元治元年甲子の役の
際不幸に兵燹に罹り家財凡て烏有に歸したるよ

り更に現住所の地を

トし熱誠斯業に従事

す君は父竹三郎氏を

補佐し家運益々盛大

に趣きつゝある際明

治二十四年父死亡せ










らるゝや君は痛く之

を歎し且父の名を繼

ぎ三代目竹三郎と改め遺業を繼續し専心斯業發展

に力めらる而して君は幼にして剛直且つ他に機先

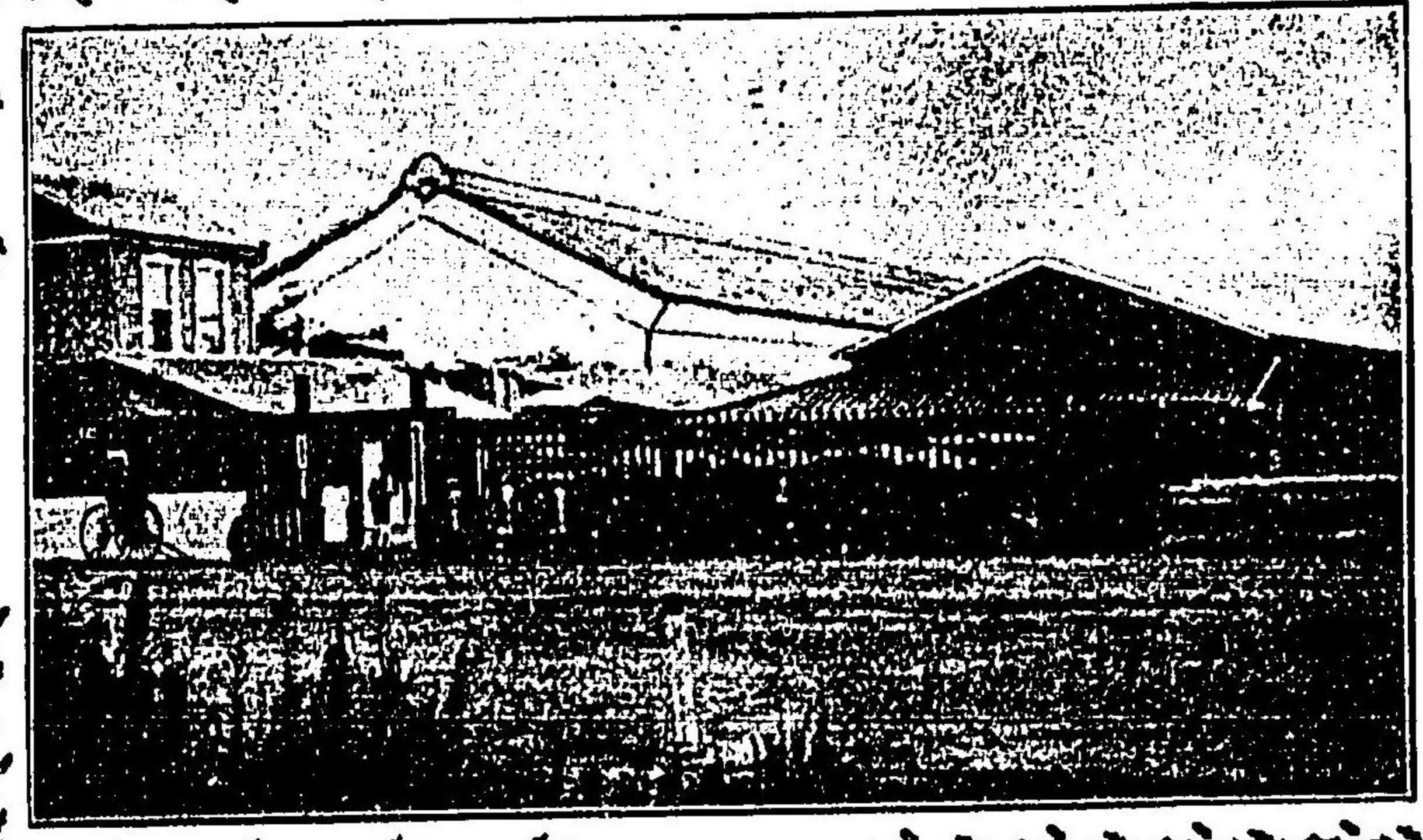
を制するを好み公共事業慈善事業等には進んで大

 七 榎板 非ニ	 青 榎板 割	 青 杉	 三 杉	 秋 杉	 AM 杉	 AM 北海 松材	 N 杉	 N 杉 板 割
--	---	---	---	---	---	---	---	---

各種挽板類及小割建築材料問屋

合資社會三鈴商會

島田木工所關西販賣店



秋田木材株式會社特約店

京都千本二條驛前

電話壹七參四番

馬の勞を厭はず尙ほ政治的思想を有し維新後自由黨を助け其行動を容易ならしむ父の遺業に對しては毫も遺訓に戻らず斯業の革新に力め今回斯業刷新を目的とし之が組合を組織せんと伏原春芳堂、岡岩太郎の二氏と共に盡力奔走し既に其効を奏し現に其重役の一員にあり君又義侠に富み家庭圓滿なるは實に他をして驚かしむ君の男豐光氏は嚴父たる君を補佐して斯業に専心盡瘁し能く父の命に應じ勉勵怠らなく爲めに父たる君も亦豐光氏を愛撫し四代目表竹の商號を譲り竹三郎の名を襲はしむる事に先天的覺悟を有する旨を親しく斯業界に誇りつゝありて其上の樂しみとせり又君が祖先は維新前より有栖川宮殿下を始め二條城、鷹司家、島津公、小松宮殿下、京都府廳、粟田青蓮院、東

福寺、宇治黃檗山、建仁寺、泉涌寺内雲龍院、永觀堂其他商家に在つては舊家等に入用して之が用達を勤めたるも其餘光は今日に輝き有名なる社寺寶物の修繕並に表具軸物金銀屏風其他新調物等の注文多くして盛大を極むるに至らしめたるは當代の竹三郎君の世に知らる所以なりし因に記す前掲の寫真中起立せらるゝは君の男豐光氏にして腰を掛け居らるゝは嚴父竹三郎君の肖像なりし

	銀		金	
鈴	京 靚 西町室原松 福田重商店 長電九三七			箔
商		風		屏

御表具師

京 都 市 高 倉 御 池 南

岡 岩 太 郎

墨 光 堂

(電 話 一 三 二 七 番)

店舗増設の披露

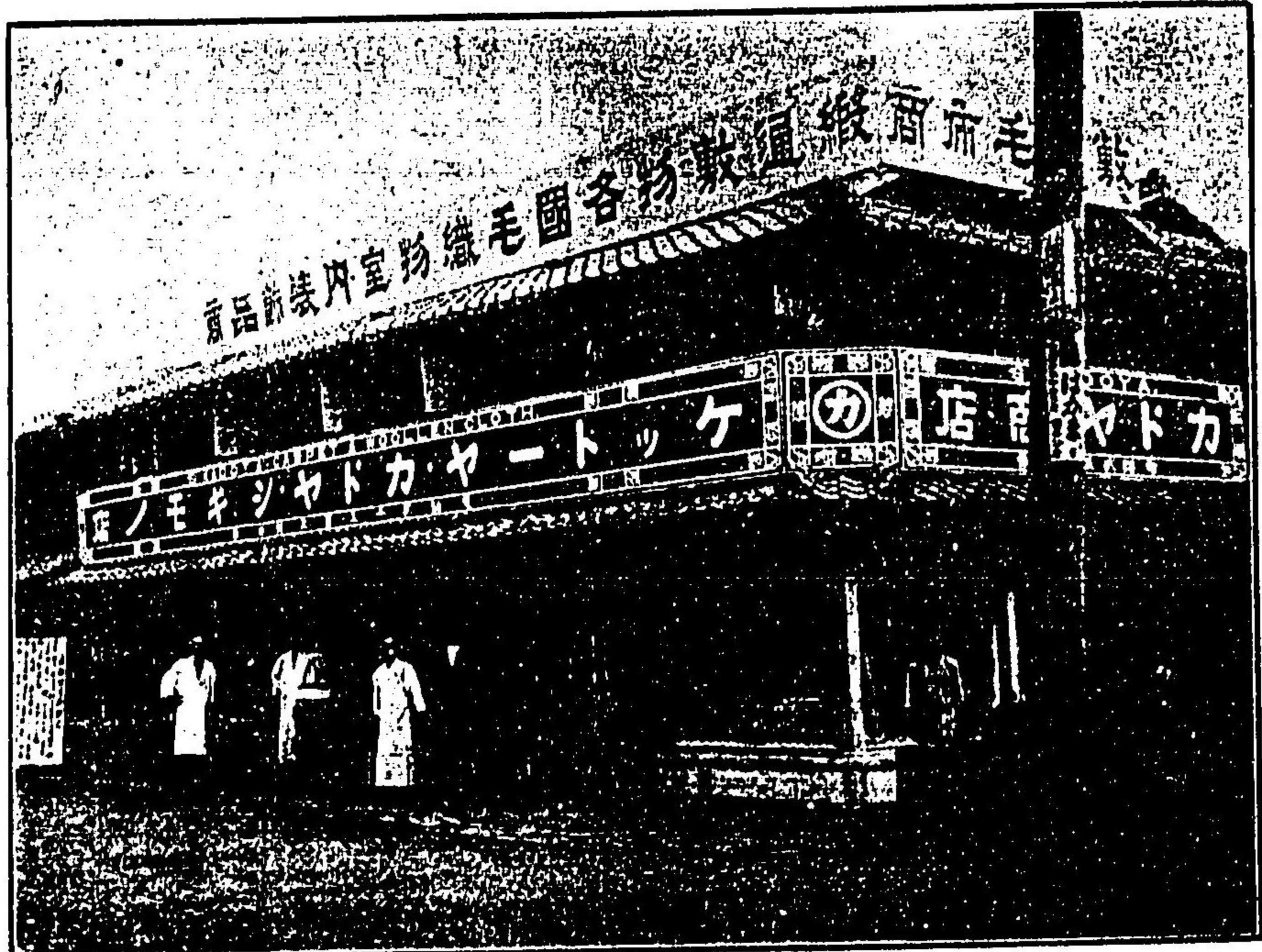
謹啓時下初秋未だ残暑去り難
 き候御高臺御揃ひ益々御清穆
 の段奉大賀候弊店義毎々格別
 の御引立を蒙り難有御厚禮申
 上候尚ほ今回商業擴張店舗増
 設仕候に付ては不相變御引立
 の程奉願候 敬具

京都市四條通寺町角

ケットリーヤ

カ
 カドヤ
敷物店
 電二五五四

各位様





京表具
美術繪畫既製品
屏風軸物表裝

揉紙織
漣紙織

意匠登錄
表裝地

伏原春芳堂

京都市姉小路車屋町

特電一七五番

京都市東洞院六角下ル
株式會社

都商工銀行

上京區大宮通笹屋町下ル
株式會社

西陣支店

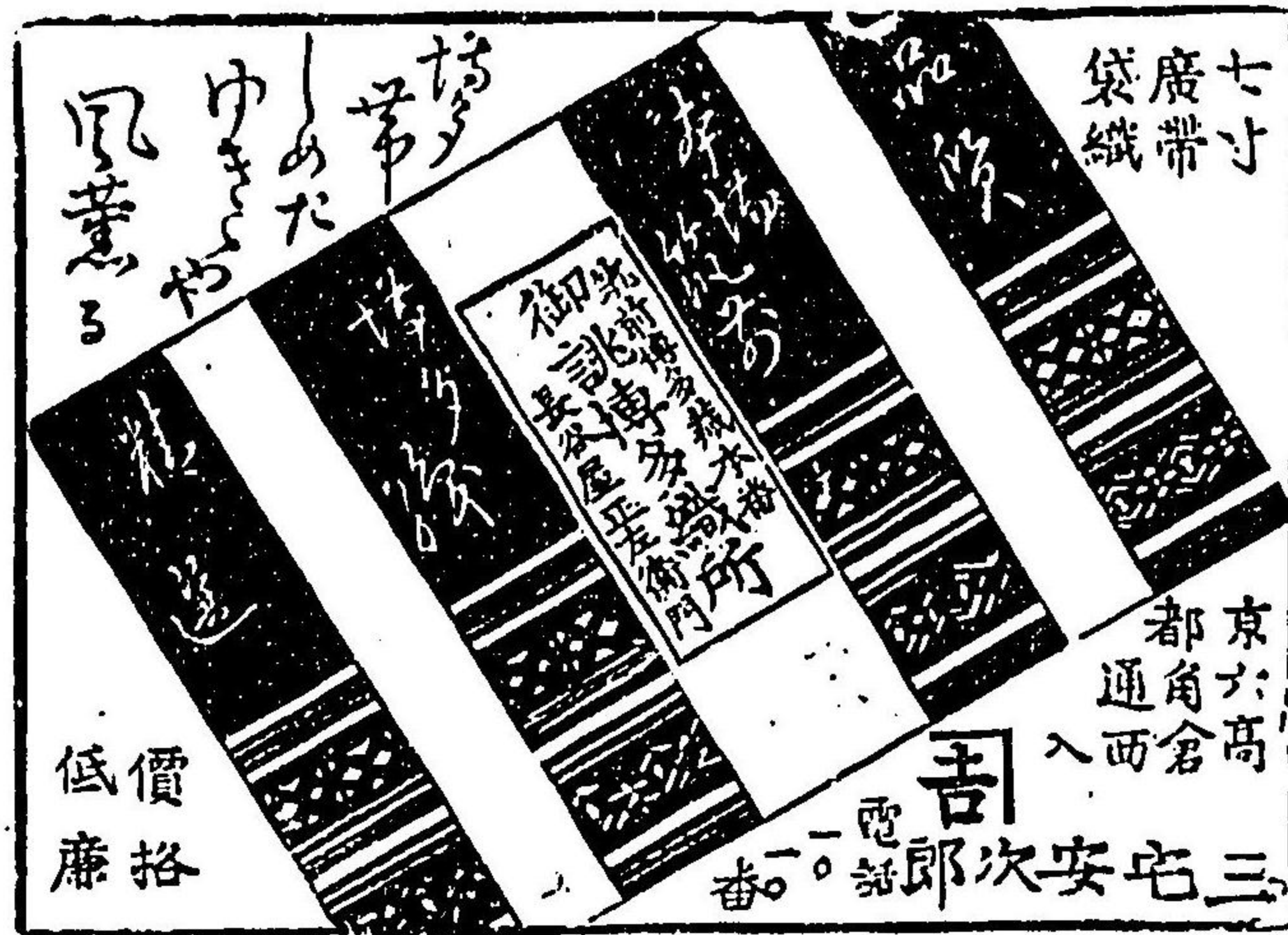
大阪市東區本町二丁目浪花橋角
株式會社

大坂支店

電話長長
一一八三二六五

電話七三〇番

電話東二三四二番



祝新築紀念誌發刊

牛肉卸賣小賣商

上京區仁王門通東洞院角

電話七千八百八十四番

平田佐藏



平田氏肖像

西洋御料理

京都市下京區河原町三條南

東洋亭

電話二二二二番

内湯開始御披露

謹啓時下秋冷相催候も未だ殘暑去り難きの候御高臺御揃ひ益御清穆之段大賀此事に御座候降て弊館儀毎々格別の御引立を蒙り難有御厚禮申上候陳は從來當温泉は總湯にて有之候處今回御高客様各位の御便宜を圖り内湯を新築致し百事斬新の設備を整頓し愈々竣工致候就ては去る六月廿八日を以て開湯仕候に付此際諸事改良を圖り御待遇上一層注意可仕折柄涼風颯々たる御入浴の好時季に御座候へば御知合御誘ひ合され御來浴御宿被仰付度伏て奉懇願候 敬具

尙高家様方の御便宜の爲め高尚にして壯麗なる特等湯を建設仕候間併て御案内申上候

内湯旅館

加賀國片山津温泉場

湯の出

諸挽板



京都市高倉通押小路上ル

中川龜次郎

長電話二千〇十二番

木材商

弊店義以御蔭營業上日増に隆盛を來し候に付ては今回製造上一層改善を加へ大に事業擴張仕候に付層一層御引立の上御用命下され度此段奉願上候 敬具

京都市下京區大佛東瓦町

煉瓦製造
販賣業

田中商店

(電話一七二二番)

西 洋 御 料 理

京 都 市 竹 屋 町 通 新 町 西 入

音 羽 軒

電 話 二 六 九 九 番

營 業 課 目

活版、石版、寫真版、其他諸般ノ印刷

洋式帳簿製造、活字製造販賣

私製端書發賣、官報販賣

京都府下
滋賀縣下
奈良縣下
官報販賣所

京都市柳馬場通二條下ル

合 資 商 報 會 社

電 話 十 四 番

明 治 四 十 二 年 九 月 十 一 日 印 刷
明 治 四 十 二 年 九 月 十 五 日 發 行

編 輯 兼 發 行 人
岡 田 武 一 郎

京都市上京區新烏丸通丸太町下ル
東樵木町第八番戶

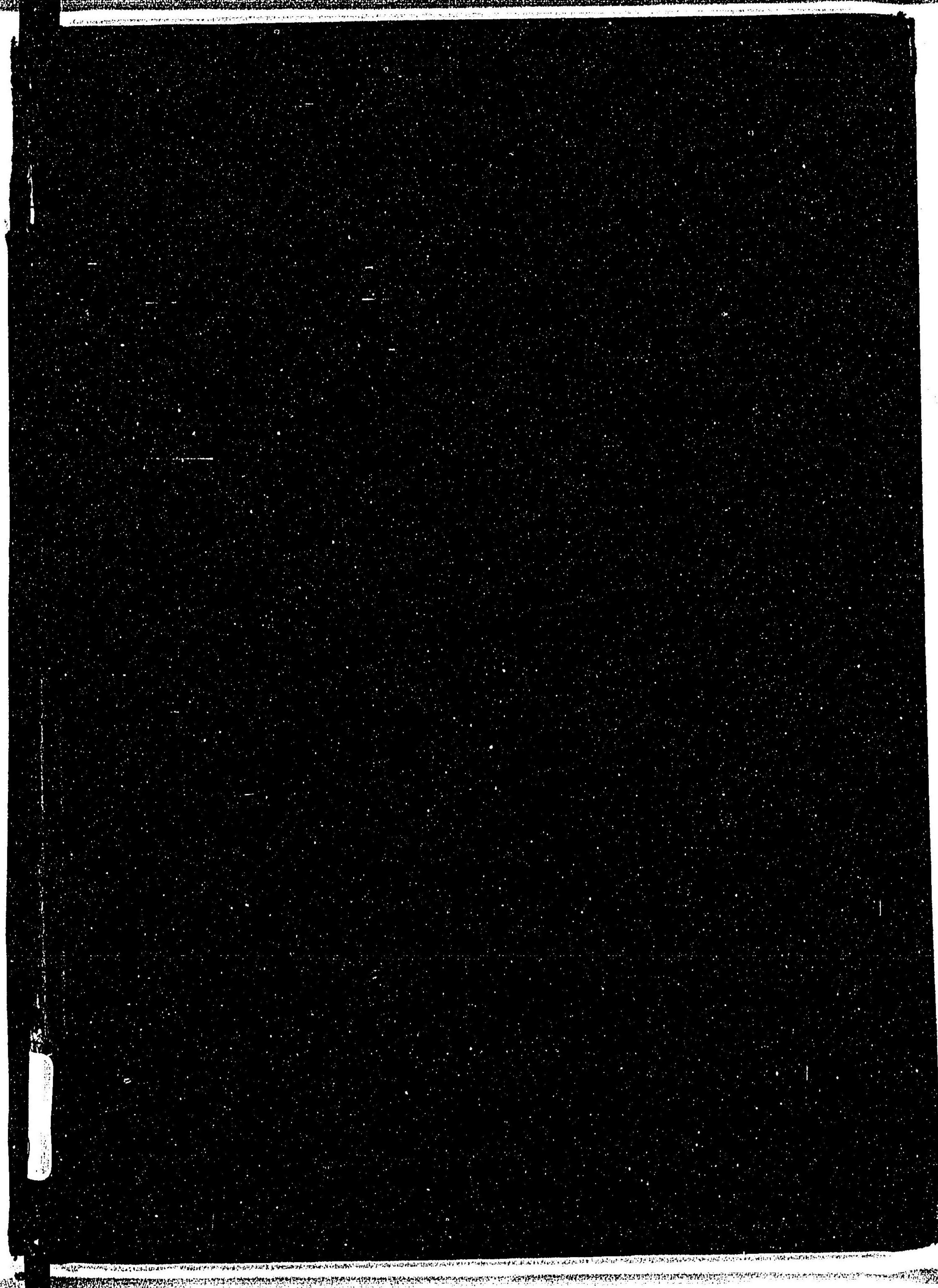
印 刷 人
三 宅 太 郎 吉

京都市孫橋通新柳馬場西入
四十八番戶

印 刷 所
合 資 商 報 會 社

22
500

22
500



22

500

004223-000-3

22-500

京都日出新聞募集建築業十傑紀念誌

岡田 武一郎/編

M42

ACE-0598



22
570

